

俳句通信

特別作品25句 ● 倉田紘文「一病共生」

特集 ● 現代作家を読む×ことばの世界に〈遊ぶ〉

田中水桜論・大河の流れ

根橋宏次

神蔵 器論・たまきはる椿の俳人

鈴木一行

廣瀬直人論・師と弟子のかたち

仲村青彦



【新作 30 句】

吉岡桂六「芽吹く森

——ヴァージニアV」

【特別寄稿 30 句】

鳥居三朗「鳥の頭」

【短期集中連載③・新作 30 句】

松岡隆子「五月来る」

【精鋭作家競詠 20 句】

根橋宏次「夏に入る」

加藤早苗「遠郭公」

児玉一江「芳春」

西池みどり「エーゲ海クルーズ」

作品 ● 小路紫峽・大峯あきら・藤木俱子・
加古宗也・高野ムツオ・小林鱒一・
楠 節子・増成栗人・山元志津香・
熊田俠郎・和田順子・井上康明・
前澤宏光・福島壺春・宮崎夕美・
中村洋子・岩田由美・辻美奈子 ほか

● 好評エッセイ ●

新連載・先人に学ぶ俳句「阿波野青畝(2)」岸本尚毅
伝統の探求・番外編「子規・虚子・碧梧桐の肉声」筑紫磐井
戦後の俳人たち「福永耕二」松岡ひでたか
虚子の肖像「虚子と一茶」坊城俊樹
飯田龍太は森である「龍太俳句の特徴」清水青風
誓子の素粒子「御遷宮」品川鈴子

真夏の 土佐

絵金のまつり

高知市・高知市朝倉神社



高知県香南市赤岡の絵金まつりは7月第3土・日曜日

高知市朝倉神社の夏祭りは7月24日で、この日にも絵金の絵が見られます。

一病共生

倉田絃文

歩幅大きく陽炎をゆきにけり

真直ぐに来て陽炎に躓きぬ

快復の手に春宵の盃を受け

神の手に命委ねる揚雲雀

一病とあゆみし道や燕くる

一病を力にかえて夏に入る



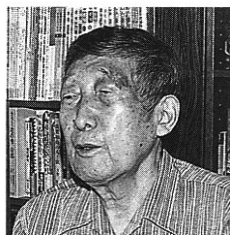
特集・現代作家を詠むX

ことばの世界にへ遊ぶ

—— 田中水桜・神蔵 器・廣瀬直人 ——

その俳句作品を読むと、あたかもことばの世界の中を自由に飛翔しているかのごとく思われる作家がいます。

今回はそのように思われる三人の俳人について、三人の評者に書いていただきました。



田中水桜(たなか・すいろう)
大正10年(1921)7月21日・東京都生まれ 本名・証(いさむ) 昭和19年「さいかち」入会 松野自得に師事 57年「さいかち」主宰継承 平成16年「さいかち」名誉主宰 俳人協会名誉会員 句集「水桜句集」「夜叉が池」「天彦」「麻布」「天真」など



神蔵 器(かみくら・うつわ)
昭和2年(1927)2月22日・東京都生まれ 22年より石川桂郎に師事 54年「風土」主宰 平成11年俳人協会常務理事 現名誉会員 句集に『二代の颯』『幻』『貴椿』(俳人協会賞受賞)『波の花』『月の道』『水輪』ほか



廣瀬直人(ひろせ・なおと)
昭和4年(1929)5月15日・山梨県生まれ 22年「雲母」入会 36年同人 編集部に所属 平成4年「雲母」終刊のあとを受けて 翌年「白露」創刊・主宰 句集に「暁照」「矢竹」「風の空」(蛇笏賞受賞)ほか



ゲスト 遠藤若狭男・中山世一

丹羽真一・福神規子

ホスト 星野高士・藤本美和子

編集長 超結社句会の第14回目です。ゲストは「狩」同人の遠藤若狭男さん、「百鳥」同人の中山世一さん、「樹氷」同人の丹羽真一さん、それに「若葉」同人の福神規子さん。ホストは「玉藻」副主宰の星野高士さん、「泉」副主宰の藤本美和子さん。遠慮のない意見交換をお願いします。

高士 始めたいと思います。4点句が一つ、3点が6つ。点がバラケました。では、4点句からやっていききたいと思います。

遠国の風のいろなる笹粽

〔若世真規〕

若狭男 はつきりいつて7番目の句だったんです。なぜかというと、「遠国」といういいかたが曖昧かなと思ったから。俳句は誰からも分かなければいけない、そしてさらに深いもの。というのが鷹羽狩行から学んでいたものなんです。『遠国』ってどこなんだろうか、と思わせるのもひとつの手なのかもしれないけど、これをもっと分かりやすく「ふるさと」とかすれば、俳句を作らない人にでももっと分かってもらえるのかなあ、と思って7番目にしました。でも「風の